

宮本 益光

モーツァルトの歌 [演出プラン付] All Mozart Program



宮本亜門氏演出で注目を集めた 2004 年のオペラ公演『ドン・ジョヴァンニ』のタイトルロールで衝撃的な二期会デビューを飾ったバリトン宮本益光。その稽古現場では、宮本益光から溢れ出る演出プランと創造力に対して演出の亜門氏が驚嘆したという逸話の持ち主です。以降もオペラ、コンサート、リサイタルへの出演はもちろん、テレビ・ラジオ番組への登場にとどまらず、デビューアルバム『おやすみ』のリリース、オペラの日本語訳詞の研究に執筆活動(本の出版や書評活動)と、とどまるところを知らない活躍ぶりをみせています。

そんな宮本益光の十八番は何といってもモーツァルト。フィガロ、アルマヴィーヴァ伯爵、グリエルモ、ドン・ジョヴァンニ、レポレッロ、パパゲーノ…。モーツァルトのオペラ作品に登場する個性豊かなバリトンのキャラクターが一同に大集合、宮本益光が早代わりをしながらすべての役柄を歌い、舞台裏まで見せる思いもつかない演出プランが展開していきます。その模様はまさにモーツァルト七変化と言えるでしょう。宮本益光ならではの、モーツァルトの魅力だけではなく、オペラの贅沢な雰囲気も味わっていただける痛快無比なひとときをお楽しみ下さい！

「モーツァルトの歌」All Mozart Program プログラム案

- 『フィガロの結婚』より「もうお前の勝ちだと～ため息をつきながら」
(アルマヴィーヴァ伯爵)
「もう飛ぶまいぞこの蝶々」(フィガロ)
『コジ・ファン・トゥッテ』より「女よ、君らはよく浮気をする」(グリエルモ)
『ドン・ジョヴァンニ』より「窓辺のセレナーデ」「シャンパンの歌」
(以上 2 曲 ドン・ジョヴァンニ)
「カタログの歌」(レポレッロ)
『魔笛』より「俺は鳥刺し」「恋人か女房か」(以上 2 曲 パパゲーノ)
「パ、パ、パ、パパゲーナ」(パパゲーノ&パパゲーナ)
* 具体的な演出プランの一端は次頁をご覧ください。



●出演料:お問い合わせください。

(地方公演の場合、旅費、滞在費は別途申し受けます)

◆◆お問合せ◆◆

株式会社二期会21

mail: nikikai@mx3.alpha-web.ne.jp

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-25-12 Tel: 03-3796-4711 Fax: 03-3796-4710

■コンサート形態

<登場人物>

宮本益光(バリトン)、ソプラノ歌手1名、童子3名(『魔笛』)

ピアノ1名、チェレスタ1名

赤星啓子(パパゲーナ)

(出演人数はご予算、ご事情に応じてご相談させていただきます。)

<公演概要>

2時間のステージでモーツァルトのオペラに登場するアルマヴィーヴァ伯爵、フィガロ、ドン・ジョヴァンニ、レポレロ、パパゲーノ、グリエルモを衣装付き、演技付きでオペラさながらに宮本がひとりで歌い分けていきます。



フィガロ(ケルビーノと一緒に)



レポレロ(「カタログの歌」)

■舞舞台裏も披露

宮本の人物早変わりによりステージは途切れ目なく進行。舞台上手には黒い衝立のようなモニュメントを設置、裏を返すと衣裳部屋仕立てになっており、衣装替えなど舞台裏の様子まで敢えて披露します。臨場感溢れる息つく暇もないステージ運びに思わず時間の経過を忘れます。

随所に宮本ならではの世相を映したアイデアが盛り込まれており、後半冒頭には白いスーツ姿に淡いサングラスのヨン様そっくりの姿で客席から登場、ドン・ジョヴァンニならぬドン・ジョヴァンニのアリアを歌い大爆笑間違いなし！！



舞台裏も (パパゲーノ)

■Profile

東京藝術大学卒。同大学大学院修士課程、博士課程修了。04年の宮本亜門演出の『ドン・ジョヴァンニ』タイトル・ロールでメジャー・デビュー後、オペラやコンサートへの出演のほか、「深夜の音楽会」、「題名のない音楽会21」、「名曲リサイタル」などテレビ、ラジオでも活躍。

06年2月東京二期会『ボエーム』シヨナル、8月東京室内歌劇場『欲望という名の電車』スタンリー、11月東京二期会『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモと重要公演への出演が相次いでいる。オペラの日本語訳詞の研究、対訳、執筆活動も手掛け、多彩な才能を発揮している。

05年秋にデビューCD「おやすみ」を、07年3月に「千の風になって」をリリース(後者は配信限定でのリリース)。二期会会員

宮本益光ホームページ <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~son-net/>

以上